



チャリティーとソリダリティー

さとう かつひこ
佐藤 克彦

PSIアジア太平洋地域・事務所長

アジアで労働組合運動に携わっていると、日本にいたときとは当然違った見方をするようになる。人から聞く話と実際そこに身を置いて自分の五感で感じることは大きく異なるからだ。アジアの労働組合はおしなべて組織率が極めて低く、個々の組合も脆弱な基盤のところが多い。もちろん政府や使用者から厳しい弾圧や組合つぶしの攻撃を受けている場合もあるが、理由は決してそれだけではない。

何事も歴史的な視点を抜きには語れない。ほとんどのアジアの国々は独立してまだ半世紀ほどしか経っていない。それより以前は長く欧米諸国の植民地支配に苦しみ、第二次世界大戦中は日本に侵略されている。現在のアジアの急速な経済発展ぶりを見ていると、こうした暗い過去のことはつい忘れてしまいがちだが、これだけ長く外国の植民地支配や侵略を受ければ、その傷跡はそう簡単に消えてしまうものではない。たとえば私が住んでいるマレーシアやインドなど南アジアの国では、イギリスの植民地時代の影響が今なお残っていて、労働組合の組織とその運営にもさまざまな形でそれが反映している。

もうひとつ重要なことは国際労働組織や欧米先

進国の資金提供団体 (Sponsor Organization) の影響である。アジアの多くの組合が I C F T U や G U F に加盟しており、また資金提供団体の支援を受けている。そうするとこれらの組合はただ財政的な支援を受けるだけでなく、組織の運営や活動、理念や政策にもそれらの大きな影響を受けることになる。国際労働組織や資金提供団体は支援を通じて欧米型の理念を途上国に広めようとするし、途上国の組合は何とかそれらとコネクションをつくって資金を得ようと思うから、ある意味で当然の結果である。

両者の間をつなぐ要素はハッキリ言うと人と金と言語である。私は今年8月にカンボジアを訪問したが、カンボジアにはまだPSIの加盟組合がなく、何か手がかりがつかめないかを探るためのものだった。このようなとき最初はどうしても誰かに頼らざるをえない。私の事務所はEIと同じところにあり、幸いにもEIにはカンボジアを担当するプロジェクト・コーディネーターがいて、すでにEIの加盟組織を持っている。そこで早速彼にお願いし私に同行してもらうことにした。親切にも彼は単に同行するだけでなく、カンボジアで会うべき人たちとのコンタクトや英語の話せる



人の手配もしてくれた。

彼の場合はネパールのE I加盟組合からクアラルンプールのE I地域事務所に来ているプロジェクト・コーディネーターだが、ILO、FESや資金提供団体の地域コーディネーターなども多くの知識とノウハウを持っており、私たちが活動する上でとても大事な協力者たちである。地域コーディネーターはアジア各国の組合関係者やNGO経験者が多いが、プロジェクトが2 - 3年か数年で終了すると次にまた別のプロジェクトへと渡り歩く人が多く、私たちは冗談で「マフィア」と言い合っている。「マフィア」に不可欠の能力は英語とコンピューターと物怖じせずどこへでも入っていける胆力である。PSIに関する資金提供団体の地域コーディネーターにフィリピン人が多いのは英語の問題が大きな理由だ。

金についてはさまざまな問題があり一言では語れない。先進国と途上国の間には極端な経済格差があり、先進国が途上国を支援することは労働組合運動でも不可欠である。しかし多くの国際援助機関やNGOなどが経験しているように、どのような形の支援が最もよいのか判断はかなり難しい。通常はPSIのような国際組織が資金提供団

体とどこかの国あるいは地域の加盟組合との橋渡しをして資金を得ているが、目先が利く組合はうまく先進国の組合や資金提供団体との関係をつくり個別に資金援助を得ている。どちらのケースでも長所と欠点はあるが、重要なことは支援を受ける側にとっても提供する側にとっても、最終的な目的が何かということである。

私はどんな国に言っても「チャリティーとソリダリティーは全く違う。」ということを強調している。組合の集会で加盟費の話をする時「PSIの加盟費は高過ぎる。」という批判を受けるが、返す刀で「では、あなたの組合はいくら払っているんですか？」と尋ねると答えられないことが圧倒的に多い。つまりこれは、「払うものは常に多く受け取るものは常に少ない」という思い込みである。途上国の組合費は極端に少ないが、これは経済的な理由だけではない。労働組合がソリダリティーの組織だということを正しく理解していないことが基本的な理由である場合が多い。「自由で民主的で独立した組合」というが、独立すべきは政府・政党や使用者からだけでなく、財政的に独立していることが重要だ。リッチな組合が常によい組合とは限らない。